

十二月例会御案内 (平成二十二年)

時代を刷新する会

○ 御案内

十二月十四日(火) 正午～午後二時半 衆議院第一議員会館地下一階・第二会議室(二九五回)

講 題 緊迫する東アジア情勢と日本の安全保障!

講 師 森本敏先生(拓殖大学大学院教授、安全保障問題の権威)

いま、東アジア地域は緊迫した状態にあります。それは、わが国尖閣諸島海域での中国漁船の日本巡視船への体当たりの衝突、これに対する民主党政権の弱腰外交と中国の強圧的外交。また、北朝鮮の独裁者・金正日氏の体調不良とその後継者として若き三男・金正恩氏の登場、そして先般の北朝鮮による韓国哨戒艦撃沈事件に続く、韓国領・延坪島砲撃事件、さらに、核開発を誇示する態度。これに対して、横須賀基地から原子力空母ジョージ・ワシントンも参加しての、黄海での米韓両国による大規模な軍事演習、これへの中国の抗議等々。一触即発的な様相を見せております。そこで、今回は、安全保障問題の権威・拓殖大学大学院教授の森本敏先生に、その分析・御解説をいただきます。森本先生はテレビ討論にもよく出演されますが、この日は、じっくりとお考えをうかがいます。重要な課題、お誘い合わせ、ご参加下さい。(清原記)

□ ◎ 当日の会費 四千元(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

御報告

去る十一月二十六日の月例会は、当団体も関与して実現した『三次元物理探査船』について、広く日本国民に知っていただくため、星陵会館ホールを借りて開催しました。当初は、技術的な固いテーマなので、参加者がどれほどおいただけか心配でしたが、午後六時半の開会時には三百人を越す状況でホッとしました。まず最初に、清原淳平専務理事から、この問題は六年ほどまえ、芦田譲京都大学大学院教授から、この海底資源探査船を、中国が十二隻、韓国が四隻所有し、世界に百七十隻もあるのに、日本には一隻もないとの講話を聞き、当団体も協力して、要請書を起案作成し、平成十六年一月、総理官邸に官房長官をお訪ねして御説明し、翌年の一月にも総理官邸に参上してお願いした結果、時の政府も事の重大性を御認識下さり、

合計三百五十億円余の予算を計上されたが、結局はノルウェー船を買取り、平成二十年一月から運航したこと。この問題は、資源探査、地震予知ばかりでなく、領海画定、安全保障にも重要であることの説明から始まりました。次いで、資源エネルギー庁の担当官から、動画とスライドショーにて、三次元探査船が、どうゆう構造で、どうゆう調査をしているかの詳しい説明があり、続いて、前記の芦田譲名誉教授も、物理探査とは何か、三次元探査の効果とは何かをパワーポイントで説明され、その後、会場の皆さんとの活発な質疑応答があり、最後に、半田理事長より、こうした説明を聞いた上での総括感想と複数隻建造推進の協力要請がありました。

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正十郎元財務大臣は、昨年七月、九十歳を機に辞任され、現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任している。理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会などの委員会があり、これまでに、政府へ一三四本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽ お知り合いで、こうした志のある方をお誘い下さい。(年会費は一口一万円)

事務局電話(03) 3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、当事務局まで、御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

十二月十四日(火) 出 欠(いずれか○) 衆議院第一議員会館・地下一階・第二会議室